

《ボランティア・市民活動センター係》

福祉分野を中心としたボランティア活動を推進するために以下の事業を行います。

(2-1、2-2、3-1)

＜2011 年度重点取り組み事項＞

- (1). 社協内の他事業と連携して、ボランティアの募集、育成、登録、組織化をすすめる。
- (2). 次世代の育成を目的とした学校での福祉体験やボランティア体験の授業をサポートする。

項 目	内 容
紹介・相談（つなげる・うみだす） コーディネーター	<p>【目的】 ボランティア活動をしたい人と、ボランティア活動を必要とする人やニーズをもった人をつなぐことにより、地域に存在する課題の解決を目的とする。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ボランティアを必要とする人と、ボランティア活動を希望する人をつなぐ。 ○人と人をつなぐだけでなく、すべての人が自らの可能性を現実のものにできるよう支援する。 ○ボランティア、市民活動団体等の紹介に加え、他の制度、サービス、団体、機関を含めたコーディネートを行う。 ○ボランティア、市民活動団体等からの相談に応じ、活動しやすい条件整備を行う。
広報活動（いかす・つなげる）	<p>ぼらんていあ倶楽部の発行</p> <p>【目的】 ボランティア活動に関する情報や状況を知らせることにより、市民に関心をもってもらい、参加するためのきっかけをつくることを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年6回発行し、ボランティア登録者、ボランティアグループ、情報を発信する。
	<p>メールニュースの発行</p> <p>【目的】 ボランティア活動に関する様々な情報を発信し、ボランティア活動に対して関心を持ってもらう。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○メールニュースサイトまぐまぐを通じて、定期的にメールニュースを配信する。
	<p>ITによる情報の発信</p> <p>【目的】 センターに来所することなくボランティア活動に関する情報を手軽に得られるようにすることにより、活動への関心を高め、参加のきっかけをつくることを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ブログを活用するなどして、ボランティア活動に活かせる情報発信をきめ細かく行う。

項	目	内 容
広報活動(いかす・つなげる)	他 団 体 の イ ベ ン ト へ 参 加	<p>【目 的】 市民が多く集まる他団体のイベントに参加し、西東京ボランティア・市民活動センターの存在、役割、事業内容を知ってもらうことにより、センターを活用してもらうことを目的とする。</p> <p>【内 容】 ○市民まつりへ参加する。 ○他団体の講座、講演会を共催する。 ○その他、他団体のイベントへ参加する。</p>
	夏！体験 ボランティア西東京 2011	<p>【目 的】 ボランティア活動に関心をもってもらい、体験後すぐに活動に結びつかなくても、将来、活動をしてもらうことを期待して実施する。市内及び近隣市の社会福祉施設、市民活動団体でのボランティア活動や市民活動を体験することによって、ボランティア活動や市民活動、高齢・障がい・児童・その他の福祉や福祉以外の市民活動の実態を学習してもらうことを目的とする。</p> <p>【内 容】 ○小学生以上を対象に、学校の夏休み期間を利用して実施する。(有料)</p>
研修・講習会(うみだす)	地 域 ボ ラ ン テ ィ ア コ ー デ ィ ネ ー タ ー 研 修 会	<p>【目 的】 施設や団体でボランティアが活動しやすい状況をつくるとともに、ボランティア担当者にコーディネート知識や技術を身につけてもらい、担当者同士の日常的な交流ができるようにすることを目的とする。</p> <p>【内 容】 ○ 意見交換会および課題解決に向けた研修会を開催する。(近隣六市のボランティアセンター共催)</p>
	ボ ラ ン テ ィ ア 懇 談 会	<p>【目 的】 活動しているうえでの課題などを話し合う場とともに、ボランティア活動についてのフォローアップ研修の場とする。</p> <p>【内 容】 ○年1～2回、登録ボランティアを中心に呼びかけ開催する。</p>
	ボ ラ ン テ ィ ア の つ ど い (ボラフェス 2011)	<p>【目 的】 ボランティア活動する人、関心のある人(依頼者含む)が一堂に会し、ボランティア活動の意義、課題などを話し合うとともに、活動する人同士のつながりをつくるきっかけとする。また、活動している人たちが主体的に企画をしていけるよう、側面的な支援を行う。</p> <p>【内 容】 ○実行委員会を組織し、講演、展示、体験などを盛り込んだイベントを行う。(無料)</p>

	項 目	内 容
	テーマ別講座	<p>【目 的】 活動に参加するボランティアを増やすため、活動のテーマ別に講座を行う。</p> <p>【内 容】 ○実践的な内容とする。</p>
研修・講習会	ボランティアはじめて講座	<p>【目 的】 ボランティア活動に関心を持ってもらい、はじめてでも楽しく活動をしてもらえるように講座を開催する。</p> <p>【内 容】 ○中高年の方々を中心に実施する。(年2～3日：有料) ○福祉分野を中心とした基礎的なノウハウを学んでもらい、活動に活かしてもらう。</p>
	ボランティア活動団体連絡会	<p>【目 的】 ボランティア活動サークルの情報交換を行い、担当者同士の交流を深めることを目的とする。</p> <p>【内 容】 ○意見交換および情報交換を行なう会合を開催する。</p>
ネットワークづくり(つなげる・いかす)	軒下ふれあいバザー	<p>【目 的】 企業の協力を得て市内のボランティアグループ、福祉施設の存在を市民に知ってもらうとともに、ボランティアグループや施設が活動資金を得て、安定的な運営が図られることを目的とする。</p> <p>【内 容】 ○イオン株式会社マックスバリュ田無芝久保店の協力を得て、店舗の敷地内でボランティアグループや施設がバザーを行い、市民へのアピールと運営資金を得る場をつくる。 ○西東京ボランティア・市民活動センターは双方をつなぐことを役割とする。(有料)</p>
教育機関への協力と連携(つなげる・いかす)	総合的な学習の時間への協力	<p>【目 的】 小学校、中学校での授業において、高齢者疑似体験や手話、点字、車いす操作、視覚障がい者のガイド等の体験をおして福祉に対する理解を広め、深め、地域とつながりあうきっかけとなるよう、各学校、教員に協力する。 地域の人たち(ボランティアや当事者)が学校の教員や子どもたちとつながりがもてるようになることを目的とする。</p> <p>【内 容】 ○学校へボランティアや当事者を紹介する。 ○教員へプログラムの組み立てなどの助言を行う。 ○教育委員会との連携を図る。</p>
	都立高校における奉仕活動への協力	<p>【目 的】 都立高校での奉仕活動の義務化に対応し、生徒に有意義な体験をしてもらうことを目的とする。</p> <p>【内 容】 ○都立高校からの依頼に応じて、奉仕活動プログラムのサポートをする。 ○ボランティアグループ、市民活動団体、福祉施設の協力を得て、生徒に活動の場を紹介、提供する。</p>

項 目		内 容
活動援助 (うみだす)	活動室・ロッカー の貸し出し	<p>【目的】 ボランティア活動、市民活動が活発に行われるように援助することを目的とする。</p> <p>【内容】 ○ボランティアグループをはじめ市民活動団体に活動室とロッカーを貸し出す。(活動室は個人も対象) ○より多くの方が市民活動のために利用しやすい条件を整えるために、活動室でパソコンを貸し出し、利便性を高める。</p>
	機 材 の 貸 し 出 し	<p>【目的】 ボランティア活動、市民活動に必要な研修、学習活動を支援することを目的とします。また、有料で貸し出すことにより自己財源とする。</p> <p>【内容】 ○プロジェクター、テレビ、ビデオデッキ、高齢者擬似体験セット、車いす、アイマスクなど、活動や研修に必要な器材、器具を貸し出す。</p>
保険の普及	ボランティア保険 の加入手続き および加入促進	<p>【目的】 ボランティア活動をする人が安心して活動できるよう、その準備も自分の責任において行うことを働きかけることを目的とする。</p> <p>【内容】 ○保険加入意思のある人に対して、保険会社との間に立ち、必要な事務手続きに協力する。</p>
	行 事 保 険 の 加 入 促 進	<p>【目的】 ボランティアグループ、市民活動団体、福祉施設等が単独または連携して行事を行う際に安心して実施できる環境づくりを目的とする。</p> <p>【内容】 ○保険について相談を受け、補償範囲・内容等を説明し、加入手続きに協力する。</p>

【内部努力取り組み事項】

項 目		内 容
自己財源づくり (うみだす)	参加費、利用料の 徴 収 物 品 販 売	<p>【目的】 補助金に頼らない運営資金づくりを行い、安定した事業運営をめざす。</p> <p>【内容】 ○運営委員会を中心として、自己財源づくりについての検討を行い、取り組む。 ○各種講座の参加費を徴収し、講座運営費とする。 ○活動に必要な機材を有料で貸し出すことにより、自己財源とする。 ○軒下ふれあいバザーに自ら出店し、物品販売を行い自己財源にする。 ○ボランティアグループと契約し、リサイクル品を販売することにより手数料収入を増やす。 ○ホームページや広報誌への企業広告を募り、自己財源とできるよう取り組む。</p>